

大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」モデル校（H25～26）

平成25年度 大阪市立阿倍野小学校 第3回 ICT 公開授業

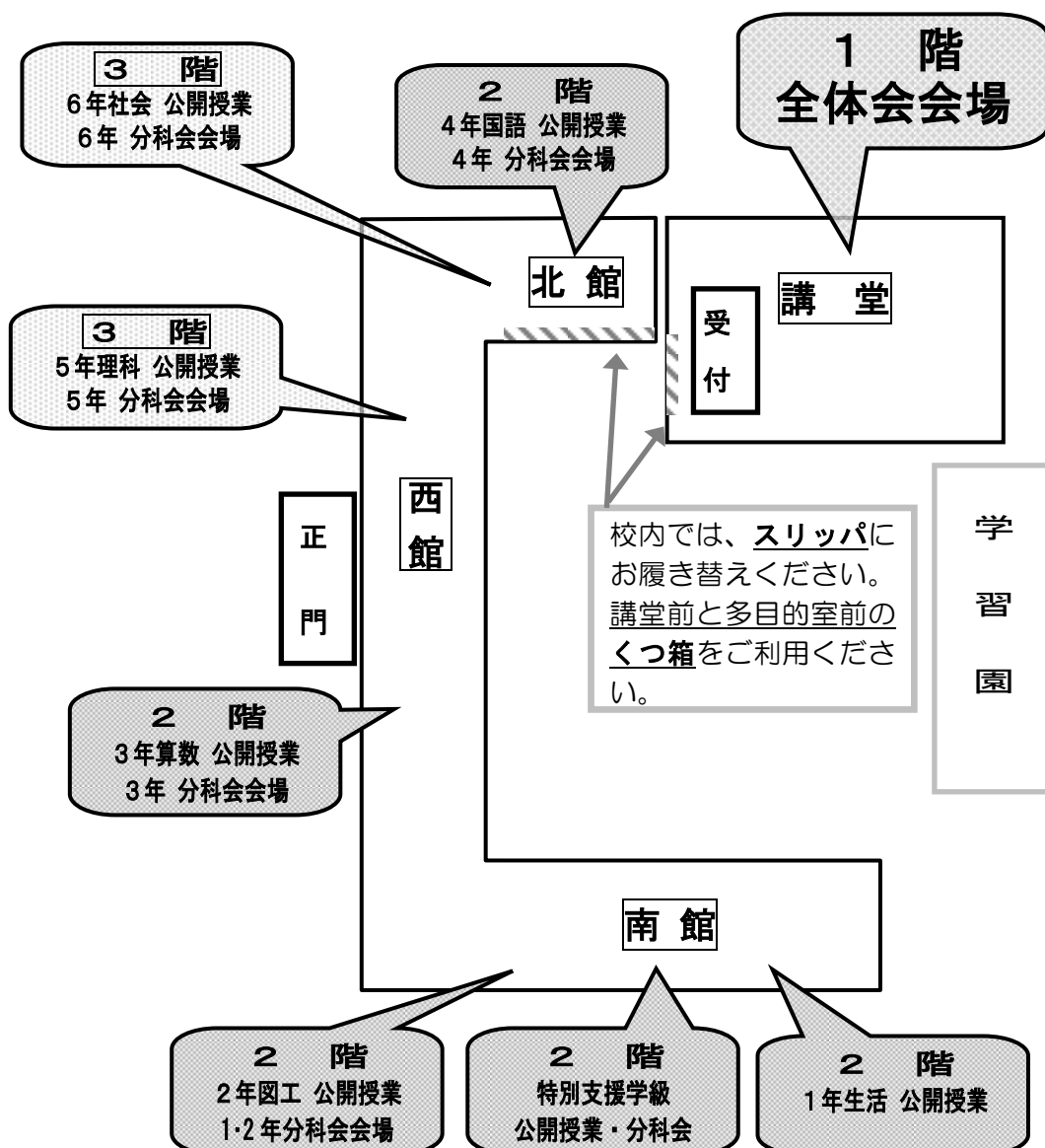
研究主題

ともに学び合い、学びを深める子どもの育成
 －ICTを活用して、教育の質を高めよう－

【時 程】

1:10	1:30	1:45	1:50	2:35	2:50	3:25	3:40	5:00
受付	全体会 (講堂)	移動	公開授業 (各教室)	移動	分科会 (各教室)	移動	全体会 (講堂)	

【会場図】



参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないようにしてください。
 - フラッシュは使用しないでください。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用してください。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能もオフにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

余寒の候、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では、平成 25・26 年度大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」モデル校の指定を受け、「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」を研究主題に、ICT 活用による教育的効果の検証に取り組んできました。

本日2月7日、大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」モデル校の公開授業を開催しましたところ、ご参会いただきありがとうございます。

ここに謹んでお礼申し上げます。ICT 活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪市立阿倍野小学校長 民辻 善昭

【公開授業】

学年・組	教科等	単元・内容	授業者	使用 ICT 機器	頁
1 年 2 組	生 活	たのしかったね 1 年かん	黄本 幸	電子黒板 iPad	
2 年 2 組	図画工作	絵画とじゃんけんポン！	西本 良太	電子黒板 iPad	
3 年 1 組	算 数	分数の表し方を調べよう	有本 淳 西窪華代	電子黒板 iPad	
4 年 2 組	国 語	報告します、みんなの生活	吉川 達也	電子黒板 iPad	
5 年 2 組	理 科	ふりこのきまり	角野 弘和	電子黒板 iPad	
6 年 2 組	社 会	日本とかかわりの深い国々	酒井 航	電子黒板 iPad	
特別支援	日常生活の指導「できるように なろう！」	玉城明子 生田一恵	電子黒板 iPad mini		

※ 特別支援学級の公開授業・分科会は、「がんばる先生支援」今日的課題研究発表会として実施します。

【分科会】

分科会	会 場	内 容		
1・2 年	2 年 1 組	・ 本時の ICT 活用のポイント説明 ・ 質疑・意見交流	体験コーナー	iPad (ロイロノートなど)
3 年	3 年 2 組			iPad (SKYMENU など)
4 年	4 年 1 組			iPad (Note Anytime など)
5 年	5 年 1 組			iPad (Numbers など)
6 年	6 年 1 組			iPad (Keynote など)
特別支援	プレイルーム			iPad mini (Keynote など)

【パネルディスカッション】

テーマ 「1 年間 ICT を活用して変わってきたこと」

コーディネータ：木村佐千恵（授業づくり指導員）

パネラー：笹井 謙・吉川達也・春山陽子・篠崎昌子
（本校の教員）（ICT 支援員）

【指導助言】

大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

第1学年 生活科 学習指導案

授業者 黄本 幸

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	□導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート
ICT 活用のポイント	○ 写真をスライドに活用することで、新1年生により分かりやすく学校を紹介することができる。 ○ グループで学校を分かりやすく伝えることができるスライドを考えることで、協働的な活動を活発に行うことができる。

1 学年・組 第1学年2組 計28名

2 場 所 1年2組教室

3 単 元 名 「たのしかったね 1年かん」

4 目 標

- 1年間の学校生活を振り返り、様々な思い出ができたことに気付くことができる。
- 自分のできるようになったことや、友だちの得意なことを見つけることによって、共に成長してきたことに気付くことができる。
- もうすぐ進級し新1年生を迎える準備を通して、身近な人々と関わる楽しさに気付き、進んで交流することができるようにする。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
1年間の楽しかった学校生活を振り返ったり、新1年生を迎える準備を意欲的にしたりすることで、進級する喜びを感じている。	1年間の学校生活の思い出を出し合い、学校の中で紹介したい場所を考え、グループで協働的に活動することができる。	自分のできるようになったことや、友だちの得意なことを見つけることによって、1年間の成長に気付いている。

6 指導計画(全 11 時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学校生活を振り返り、楽しかった思い出を出し合う。 ・今までの学校生活の写真を見て、『楽しかったことベスト3』を考え、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学校生活の写真を電子黒板で提示することで、これまでの思い出を想起することができる。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の変化や、できるようになったことを見つける。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの『すごいところ見つけ大会』をする。 	

3	4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐ進級する今、新1年生にしてあげられることを話し合う。 ・学校の中で1番紹介したい場所の写真を撮る。 ・紹介したい場所の写真を活用して、新1年生に学校紹介することを知る。 ・グループになり、どのような紹介をするのか考え、足りない素材を追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを活用し、学校の中で1番紹介したい場所を撮影する。
	7 (本時) 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい順番になるよう工夫し、学校の中で1番紹介したい場所のスライドを作る。 ・スライドや必要な素材を使い、伝え合う準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板にiPadを提示し、ロイロノートの操作方法を分かりやすくする。 ・ロイロノートを活用し、グループで協働的にスライドを作る。 ・伝える内容の順番に合わせて、自由にスライドの順番を変えることができる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中で紹介したい場所を、グループで協力して伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで作ったスライドを、電子黒板で提示し、分かりやすく伝えるようにする。
4	11	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初のことを思い出し、新1年生を迎えるときのプレゼントを作る。 	

7 本時の学習

(1) 目 標

- 新1年生に学校の中で紹介したい場所から、自分たちが伝えたいことを考え、グループで協力し表現することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<p>○ 前時までの振り返りをし、本時のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生になった時、今回作ったスライドを新1年生の学校紹介に活用するということを再確認する。 			<p>【生活への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新1年生のために意欲的に取り組もうとしている。 <p>(態度・発言)</p>
	<p>しん1年生に学校をしょうかいしよう</p> <p>○ 本時の活動の『やくそく』を知る。</p>			
展 開	<p>○ ロイロノートを活用し、学校の中で紹介したい場所のスライドを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに撮ってきた、新1年生に紹介したい場所の写真を活用し、グループで協力しながらスライドを作る。 ・スライドの順番も、始め、中、終わりや、クイズ形式にする等、分かりやすい構成になるようにグループ内で考えを出し合って作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの使い方を電子黒板で全体に提示することで、操作方法を分かりやすくする。 ・写真をスライドに活用することで、新1年生により分かりやすく学校を紹介することができるようにする。 ・グループで学校を分かりやすく伝えることができるスライドを考えることで、協働的な活動を活発に行うことができる。 	<p>電子黒板 iPad (指・児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート 	<p>【活動や体験についての思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新1年生に分かりやすい学校紹介をしようと、グループで協働的に工夫してスライドを作っている。 <p>(態度・行動・ロイロノート)</p>

まとめ	○ 振り返りをする。 ・自分たちのグループで工夫している点を発表する。 ○ 次時の学習内容を知る。	・発表するグループのスライドを提示することで、他のグループの工夫している点を共有することができる。	電子黒板 iPad（児） ・ロイロノート	
-----	---	---	----------------------------	--

(3) 板書計画

④ しん1年生に学校をしょうかいしよう	<div data-bbox="1053 376 1208 412" data-label="Section-Header"> <p>つくりかた</p> </div> <div data-bbox="1082 430 1420 750" data-label="List-Group"> <ol style="list-style-type: none"> 1. えらぶ。 2. ならべる。 3. つなぐ。 4. たしかめる。 だいめいをかく。 5. マーキング </div>
<div data-bbox="186 486 304 524" data-label="Section-Header"> <p>やくそく</p> </div> <div data-bbox="196 562 643 676" data-label="List-Group"> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校のことがよくわかるように、ながれをくふうしよう。 ② グループできょうりょくしよう。 </div>	<div data-bbox="695 474 948 510" data-label="Section-Header"> <p>しょうかいのしかた</p> </div> <div data-bbox="742 512 1038 665" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ ・へやのしょうかい ・みちじゅん ・気をつけてほしいこと </div>

第2学年 図画工作科 学習指導案

授業者 西本 良太

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート
ICT 活用のポイント	○ 学習のねらいを達成するために必要な作品を提示することができ、様々な作品に触れながら自分のイメージを広げることができる。 ○ 作品に直接自分の考えを書きこむことで、作品と自分のイメージとの具体的なつながりが伝えやすくなる。

1 学年・組 第2学年2組 計27名

2 場 所 2年2組教室

3 単 元 名 「絵画とじゃんけんポン！」

4 目 標

○ 形や色などを基に、作品についての自分のイメージをもつことができる。

○ 作品から感じたことを話したり、友だちの話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さに気付くことができる。

○ 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえることができる。

5 単元の評価規準

造形への関心や意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
作品の形や色などの面白さや美しさを楽しんでいる。	作品の見方を変えて想像を広げている。	思いついたことや考えたことを自分らしい方法で表している。	作品の形や色づかいの面白さや良さを感じ取っている。

6 指導計画（全8時間）

次 時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1 ・一枚の作品を観て感じたことを伝え合う。	・電子黒板で作品を提示することで、全体で共有することができる。
	2 ・アートカードの中からお気に入りの一枚を選んで、気に入っているところを発表する。	・書画カメラを活用してアートカードを提示することで、全体で共有することができる。
2	3 (本時) ・作品の全体や部分から「グー・チョキ・パー」を想像する。	・ロイロノートを活用することで、自分の考えを作品に直接繰り返し書き込んだり、マーキングをしたりすることができる。 ・ロイロノートを活用して一人一人の考えを共有することで、想像を広げることができる。
	4 ・作品をつなげてジャンケンゲームをつくる。	・ロイロノートを活用することで、作品をつなげてジャンケンゲームをつくることことができる。

3	5	・絵画とジャンケン大会をしよう。	・ロイロノートの画像を提示することで、全体で交流することができる。
4	6	・デカルコマニーの技法を活用して、自分の作品をつくる。	・書画カメラを活用して技法を提示することで、つくり方を明確に知ることができる。
	7	・自分の作品の全体や部分から、「グー・チョキ・パー」を想像する。	・ロイロノートを活用することで、自分の考えを作品に直接繰り返し書き込んだり、マーキングをしたりすることができる。
5	8	・友だちの作品とじゃんけん大会をしよう。	・ロイロノートの画像を提示することで、全体で交流することができる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 作品の見方を変えて想像を広げることができる。
- 作品の形の面白さや良さを感じ取ることができる。
- 見つけ出した理由を自分らしい方法で伝えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一枚の作品の中から、「グー・チョキ・パー」を探すという学習課題をつかむ。 ・作品の中から、グー・チョキ・パーを見つける。 ・指導者が見つけたグー・チョキ・パーでジャンケンをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を電子黒板で提示して、全体で共有することによって学習への意欲を高める。 	電子黒板 iPad（指） ・ロイロノート	【関心・意欲・態度】 ・作品の中からグー・チョキ・パーを見つけようとしている。 （行動・発言）
	作品の中から、「グー・チョキ・パー」を見つけよう			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループに分かれて、絵の中からグー・チョキ・パーを見つけ出し、理由を伝え合いながら、絵にマーキングをする。 ・石のような形に見える。（グー） ・はさみのような形をしている。（チョキ） ・手を広げたような形をしている。（パー） ・グーかチョキかパーを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートのアルバムから作品を選び、活発に意見交流を行う。 ・ロイロノートのペン機能を活用し、グー・チョキ・パーが視覚的に分かるように線で囲んだり、形をなぞったりする。 	電子黒板 iPad（児） ・ロイロノート	【発想・構想】 ・形の見方を変えて、想像を広げている。 （行動・発言） 【技能】 ・見つけ出した形を自分らしい方法で表している。 （行動・発言）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「グー・チョキ・パー」の作品を仲間分けする。 ・見つけ出した作品を指導者に送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート上でグー・チョキ・パー整理することで、視覚的に分かりやすくする。 ・トンネル機能を活用して、スムーズに作品を回収する。 	電子黒板 iPad（指）（児） ・ロイロノート	

まとめ	○ 作品を使ってジャンケンをする。 ・見つけ出したグー・チョキ・パーの理由を発表する。 ・発表を聞いて意見交流を行う。	・回収した作品を電子黒板で提示し、他のグループと作品を共有し合うことで、形や色、表し方の面白さに気付く。	電子黒板 iPad（指） ・ロイロノート	【鑑賞】 ・作品の形や色づかいの面白さや良さを感じ取っている。 （発言）
-----	---	--	----------------------------	--

（３）板書計画

◎グー・チョキ・パーを見つめよう。 ・マーキングをする。 ・グー・チョキ・パーをかく。 ・理ゆうを考える。 ・グー・チョキ・パーに分ける。 ・先生にトンネルでおくる。	電子黒板
--	------

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 □グループ学習 ■個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ デジタル教科書（小学算数3年下） ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ 電子黒板に問題を提示することで、子どもに問題をしっかりと伝えるようにする。 ○ 子どもそれぞれが iPad 内の図や数直線に自分の考えを表現することによって、子どもの考えを指導者が一括して把握する。 ○ 子どもの表現を瞬時に電子黒板に提示する。 ○ 電子黒板に提示された画面をツールとして自分の考えを学級みんなに表現する。

1 学年・組 第3学年1組 計30名

2 場 所 3年1組教室

3 単 元 名 「分数の表し方を調べよう」

4 目 標

- 量の大きさを表すのに、分数を用いることができる。
- 分数、分母、分子という用語を知り、分数の意味や表し方を理解することができる。
- 分数の大小関係、分母が10の分数と小数の相互関係を理解することができる。
- 同分母分数についての加減の計算の仕方を考え、その計算ができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
きちんとした小数で表せない量の表し方を考え、分数を用いて表すことができる良さに気付き、進んで活用しようとしている。	等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すとき、単位分数のいくつ分で表すことができるかを考えている。 同分母分数の加減の計算の仕方を考えている。	等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを分数を用いて表すことができる。 同分母分数の加減の計算ができる。	分数の意味について理解している。 分数は単位分数の幾つ分かで表せることを理解している。 同分母分数の加減の計算の意味を理解している。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのもので、分けた大きさをとらえる。 単位量に満たないあまりの大きさの表し方を考える。 分数の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くのものを分けることで、分けた大きさをとらえられるようにするために、子どもに iPad の写真機能を使って様々なものの画像を撮影させ、その画像を分け、大きさを考える活動を取り入れる。 子どもが自分の考えを発表する時に iPad への書き込みを電子黒板に提示し、その画面を使って説明を行うようにする。
	2		
	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 より小さいかを分数で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分の考えを発表する時に iPad への書き込みを電子黒板に提示し、その画面を使って説明を行うようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 と同じ大きさを分数で表す。 	
2	5	<ul style="list-style-type: none"> 分数の大小関係を考える。 1 より大きい数を分数で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考する時間をできるだけ長く取るために、分数の大小関係を考えるときに使用するテープ図を予め共有フォルダに保存しておき、その図をツールとして考えをまとめるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 分母が 10 の分数と小数の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考する時間をできるだけ長く取るために、数直線をすでに書き込んだノートに共有フォルダに用意しておく。子どもは iPad を用いてノートの数直線をツールに分母が 10 の分数と小数の関係を考えることができるようにする。
3	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> (真分数) + (真分数) = (真分数) の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物だけでなく、電子黒板を用いて抽象である図を提示して補足説明することによって問題の把握を促す。 共有フォルダに指導者が作成した図や数直線のノートを保存しているので、子どもが自分自身で使うノートを選択することができる。 子どもが自分の考えを発表する時に iPad への書き込みを電子黒板に提示し、ツールとして説明を行うようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> (真分数) + (真分数) = 1 の計算の仕方を考える。 (真分数) - (真分数) = (真分数) の計算の仕方を考える。 	
4	9	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 復習ドリルに取り組むことで自分自身の知識の定着を確認することができる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 同分母分数の加法の意味を理解し、計算の仕方を考えることができる。
- 同分母分数の加法ができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 問題と出会う。	<ul style="list-style-type: none"> 具体物だけでなく、電子黒板を用いて抽象である図を提示して補足説明することによって問題の把握を促す。 	電子黒板 iPad ・SKYMENU	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Aさんは昨日の朝、野菜ジュースを2/5L 飲みました。今朝は1/5L 飲みました。昨日と今日で合わせて何 L 飲みましたか。 </div> ○ 学習課題を見出す。			

	<ul style="list-style-type: none"> 分数のたし算をすればよいことに気付かせる。 			
	<div>分数のたし算はどのように計算すればよいのだろうか。</div>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題の解決への見通しをもつ。 ・ 解決のために何が使えるのかを考える。 ○ 分数のたし算の仕方を考える。 ・ 各自でノートを選択し、分数のたし算の仕方を考える。 ・ 分数のたし算の仕方を発表する。 ・ それぞれの考え方の似ている所やどの方法が分かりやすいのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共有フォルダに指導者が作成した図や数直線を保存しているので、子どもが自分自身で何を使うのか、選択することができる。 ・ 子どもが自分の考えを発表する時に iPad の図や数直線への書き込みを電子黒板に提示し、それをツールとして説明を行うようにする。 	iPad ・ SKYMENU	【数学的な考え方】 ・ 単位分数をもとにして、同分母分数の加減の計算の仕方を考えている。 (iPad データ・発言)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分数のたし算の仕方についてまとめる。 ・ 分数のたし算の仕方を言葉でまとめる。 ○ 今日の学習をふりかえる。 ・ ノートに小テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストに取り組むことで自分自身の知識の定着を確認することができる。また、ノートに記入することで、学習後いつでも分数のたし算の仕方を確認することができる。 		【技能】 ・ 同分母分数の加減の計算ができる。 (iPad・ノート) 【知識・理解】 ・ 同分母分数の加減の計算の意味を理解している。 (ノート)

(3) 板書計画

電子黒板	<div>めあて</div> 分数のたし算のしかたを考え、計算できる。
	<div>問題</div> Aさんは昨日の朝、野菜ジュースを $\frac{2}{5}$ L 飲みました。今朝は $\frac{1}{5}$ L 飲みました。昨日と今日で合わせて何L飲みましたか。
	<div>見通し</div> 式・・・ カップの図、数直線
	<div>考え方</div> 図を使って考えている。 5分の1がいくつで考えている。
	<div>まとめ</div> 分母が同じ分数のたし算は、何分の1がいくつあるかで考えると計算できる。

第4学年 国語科 学習指導案

授業者 吉川 達也

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ Note Anytime ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ アンケート項目について、Note Anytime のテンプレートや容易な入力機能を用いることでグループでの話し合いを効率的に進め、協働的な学びを深めるようにする。 ○ 話し合った結果をテンプレートに入力し、アンケートをデジタル化することで、いつでも誰でも見られるようにする。

- 1 学年・組 第4学年2組 計34名
- 2 場 所 4年2組教室
- 3 単 元 名 「報告します、みんなの生活」
- 4 目 標

○ 調べたことを整理して、ポスターを使いながら順序よく報告することができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
資料を使った発表の良さに気づき、ポスター発表の仕方を話し合ったり教科書で調べようとしていたりしている。	調べたいことを決めたり、アンケートの質問事項についてグループで話し合ったりしている。 質問項目や調査結果について目的に応じて理由や事例を挙げて話し合っている。 調査結果から考えたことなどを整理し発表する目的に合ったポスターを作成している。 発表することを整理し、発表全体の構成を考えてメモや原稿を作成している。 聞く人が理解しやすいように、話し方やポスターの見せ方などを考えながら話している。 立つ位置、話す早さや間の取り方、ポスターの示し方などに注意して、聞き手の様子を確認しながら話している。 報告の内容や発表の仕方について自分の考えを持ちながら聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。	丁寧な言葉を用いて適切な言葉遣いで話せている。

6 指導計画（全 12時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 資料を使った発表と口頭発表を比べてポスター発表に興味を持ち、ポスター発表をする目的や相手を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が作成した 資料を電子黒板に提示することで、学習への意欲を高める。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態について調査したい内容を考え、調べたいことを決め、班を作る。 各自調査報告してみたいことを考えノートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに書いた内容を Note Anytime に取り込み残しておくことで、次時のアンケート項目の話し合いに生かす。
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> グループでアンケートの質問内容を話し合っ て決める。 具体的な調査内容を話し合い、質問事項を決める。 アンケートを作成する。 アンケートの回答方法を知り、試す。 	<ul style="list-style-type: none"> Note Anytime 上でアンケート項目内容をグループで話し合うことで、協働的な学びを促す。 話し合った結果をテンプレートに入力し、デジタル化することで、いつでも誰でも見られるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート用紙を SKYMENU 上で開き、マーキングで回答することで、質問ごとに同時に集計を行えるようにする。 回答したアンケートを共有フォルダに保存し、いつでも誰でも見ることができるようにする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの調査結果を整理して、分かったことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU の共有フォルダに入っている回答用紙を確認し、集計をする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果を数値化し、図や表にまとめる方法を話し合う。 図や表の効果的な入れ方を話し合い、ポスターを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表などの見本を効果的な表現について考えていくために、見せる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 資料のレイアウトを考え、作った資料を見せ合い、良い点や改善点を考える。 より分かりやすいポスターにする為にどんな工夫をすると良いか話し合い、レイアウトする。 	<ul style="list-style-type: none"> 班でそれぞれ作り直したポスターを、電子黒板を使って提示することで、よかったところや改善点を共有する。
3	8	<ul style="list-style-type: none"> レイアウトしたポスターを用いて発表用のポスターを完成させる 	<ul style="list-style-type: none"> Note Anytime を用いてポスターを作ること で、資料の提示の仕方を工夫したり、ポスターの内容や、グラフなどを簡単に取り込んで提示したりする。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 発表の役割分担を決め、ポスターを使って発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad(児)のカメラ機能（動画）を用いて、発表原稿ができた班から各自で発表の練習をする。
	10		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ポスター発表をして、質問したり感想を伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成したポスターを電子黒板で提示し、報告を行うことで、アンケートの結果を分かりやすく伝え、お互いの生活について興味・関心を高める。
	12	<ul style="list-style-type: none"> 班で発表の仕方を振り返り、それらを伝えあい共有する。 	

7 本時の学習

(1) 目 標

- アンケートの内容項目について話し合い、アンケートを作成することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 単元の課題及び、本時の課題を確認する。			【関心・意欲・態度】 ・資料を使った発表の良さに気づきポスター発表に興味関心を持っている。 (発言)
	○ 本時の流れ及び、アンケートの項目作りの注意事項を確認する。	・Note Anytime を使ってアンケート項目の例を提示することで、見通しを持てるようにする。	電子黒板 iPad(指) ・Note Anytime	
展 開	○ グループで質問内容を確認し合い、内容項目を考える。 ・アンケートの内容項目について相談する。	・Note Anytime 上のテンプレートを用意しておき、スムーズに作成できるようにする。	iPad(児) ・Note Anytime	【話す・聞く】 ・アンケートの質問事項について、グループで話し合ったりしている。 (発言)
	○ 話し合った内容に沿ってアンケートのテンプレートを活用し、アンケートを完成する。 ・回答しやすい、集計しやすいアンケートになっているか確認し、保存する。	・ペン機能を使うことで誰でも簡単に作成できるようにする。 ・アンケートを SKYMENU の共有フォルダに取りこみ、アンケートをいつでも誰でも集計しやすくする。	・SKYMENU	
ま と め	○ 次時の予告をし、アンケートの回答方法を知り、試す。	・アンケートの実施方法を電子黒板上で見ること、次時の見通しを持ちやすくする。	電子黒板 iPad(指)(児) ・Note Anytime ・SKYMENU	【関心・意欲・態度】 ・今日の学習を通して決まったことを確認し、見通しを持つ。 (行動観察)

(3) 板書計画

<p>電子黒板</p>	<p>報告します、みんなの生活</p> <p>めあて アンケートの内容項目を話し合い、アンケートを作ろう。</p> <p>目的 自分たちの生活をよりよくする。</p> <p>一 質問内容の確認 二 内容項目を考える 三 アンケートを完成する。 四 保存する。 五 回答方法を知る。</p>
-------------	--

第5学年 理科 学習指導案

授業者 角野 弘和

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ Numbers ○ ストップウォッチ機能(iPad) ○ SKYMENU ○ Excel
ICT 活用のポイント	○ Numbers を用いて実験結果を素早く処理することで、実験の回数を増やすことができる。 ○ 電子黒板に実験の結果を随時提示することで、実験の結果を全員で共有することができる。 ○ Numbers のデータを SKYMENU の共有フォルダに保存することで実験データを共有することができる。

1 学年・組 第5学年2組 計31名

2 場 所 5年2組教室

3 単 元 名 「ふりこのきまり」

4 目 標

- おもりを振ったときの運動に興味をもち、振り子の長さやおもりの重さ、振れ幅などを変えて調べ、振り子が1往復する時間は振り子の長さによって変わることとらえるとともに、ものの運動にかかわる条件を制御しながら規則性を追究することができる。

5 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
振り子の振れ方に興味をもち、振り子の運動の規則性を調べようとしている。 振り子の規則性を利用したおもちゃを考えたり、その規則性を利用したものを探したりしようとしている。	振り子が1往復する時間が変わる条件について予想や仮説をもち、表現している。 振り子の運動の変化とその要因とを関係づけて考え、自分の考えを表現している。	振り子の運動の規則性を条件に気をつけながら計画的に調べ、結果を記録している。 振り子の規則性を利用してつくったおもちゃを動かしている。	振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わること理解している。

6 指導計画（全7時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	・振り子の振れ方には、何かきまりがあるのか、振り子をつくって調べ、気付いたことを話し合う。 [一斉・グループ]	・電子黒板で振り子の定義とそのつくりを確認し、学習に対する意欲・関心を高める。
2	2	・振り子が1往復する時間は、どんな条件で変わるのかを予想し、実験を計画する。[一斉]	・個々が予想した図や言葉を電子黒板に投影し、全員で共有を図る。
	3	・振り子の条件（ふれはば）を変えて調べ、振り子が1往復する時間のきまりを見つけ、結果からどんなことがわかるかを話し合う。 [一斉・グループ]	・実験結果を iPad に入力して、結果をまとめる時の資料として活用する。 ・記録した結果をすべてのグループで共有できるようにし、実験結果の考察に活用する。
	4 (本時)	・振り子の条件（ふりこの長さ）を変えて調べ、振り子が1往復する時間のきまりを見つけ、結果からどんなことがわかるかを話し合う。 [一斉・グループ]	・実験結果を散布図として随時電子黒板に提示することで、実験の進捗が分かるようにする。
	5	・振り子の条件（おもりの重さ）を変えて調べ、振り子が1往復する時間のきまりを見つけ、結果からどんなことがわかるかを話し合う。 [一斉・グループ]	
	6	・全ての実験の結果からどんなことがわかるか、話し合う。 [一斉・グループ]	・Numbers に記録した実験結果や前時までの考察をもとに、振り子が1往復する時間と諸条件との関係をまとめる。
3	7	・振り子のきまりを利用して、おもちゃをつくる。 [一斉]	・電子黒板で振り子の規則性を利用したものを紹介し、学習に対する意欲・関心を高める。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 振り子の運動の規則性を条件に気をつけながら計画的に調べ、結果を記録することができる。
- 振り子の運動の変化とその要因とを関係づけて考え、自分の考えを表現することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 問題をつかむ。	・実験の計画をふり返ること で、本時の活動内容を意識 する。	電子黒板 iPad (指)	
	<div>ふりこの長さを長くすると、ふり子が1往復する時間はどうなるのだろう</div> ○ 活動の流れを確認する。 ・振り子の長さを長くして、振り子が1往復する時間がどのようになるかを調べることを確認する。			
展 開	○ 振り子の長さを長くすると、振り子が1往復する時間がどのようになるか実験する。 ・同じにしておく条件をしつかりと確認する。 ・計測や記録などの役割分担を決めて実験を行う。	・実験結果を入力すると1往復の時間が計算されるようにしておき、効率的に考察を行えるようにする。 ・実験結果を散布図として随時電子黒板に提示することで、実験の進捗が分かるようにする。	iPad (児) ・Numbers 電子黒板 ・Excel	【観察・実験の技能】 ・振り子の運動の規則性を条件に気をつけながら計画的に調べ、結果を記録してい

	○ 結果を整理する。 ・グループの実験結果を整理する。 ・他のグループの実験結果も参考にする。	・実験結果を共有フォルダに保存することですべてのグループの実験結果を共有できるようにする。	iPad (児) ・Numbers ・SKYMENU 電子黒板 ・Excel	る。(行動観察・記録分析)
まとめ	○ 実験結果からどんなことが分かるかを話し合う。 ・まとめた実験結果からどんなことが分かったかを話し合い、発表する。	・自分たちのグループと条件が違うグループの結果も比べながら発表できるようにする。	電子黒板 iPad (指) (児) ・Numbers ・SKYMENU ・Excel	【思考・表現】 ・振り子の運動の変化とその要因とを関係づけて考え、自分の考えを表現している。(行動観察・記録分析)

(3) 板書計画

問題	ふりこの長さを長くすると、ふりが1往復する時間はどのようなだろう		
<div style="border: 1px solid black; width: 280px; height: 150px; margin: 0 auto;"></div> <p>スクリーン</p>	予想	<p>実験<同じにする条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりこのふれはば…10cm ・おもりの重さ…10g <p><調べる条件></p> <p>分かったこと</p>	

第6学年 社会科 学習指導案

授業者 酒井 航

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 ■学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ Keynote
ICT 活用のポイント	○ 電子黒板での資料提示を行い、問題を発見し、追究意欲を高めることができる。 ○ 児童が個別に iPad を活用し、調べ活動の効率化を図ることができる。

- 1 学年・組 第6学年2組 計23名
- 2 場 所 6年2組教室
- 3 単 元 名 「日本とかかわりの深い国々」
- 4 目 標

○日本と経済や文化などの面でつながりの深い国の様子に関心をもち、意欲的に調べ、日本や諸外国の伝統や文化を尊重し、日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であるという自覚をもつことができる。

○地図や地球儀、各種資料やインターネットを効果的に活用して、日本とつながりの深い国の人々の生活の様子について調べ、日本との関連を考えることができる。

○外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解することができる。

5 単元の評価規準

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
日本とつながりの深い国々の文化や生活に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 異なる文化や生活を理解し合うことで、日本や諸外国の伝統や文化を尊重しようとしている。	日本とつながりのある国について調べ、調べたいと思った理由や内容を表現している。 調べたことをもとに、日本の文化との関連を考え、異なる文化や習慣を理解し合うことの大切さを適切に表現している。	地図や地球儀、各種資料やインターネットなどの資料を活用して調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。	外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解している。

6 指導計画（全7時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 (本時)	・日本とつながりの深い国について調べ、自分が調べたい国や調べる内容を決める。	・日本とつながりの深い国について Keynote から必要な資料を選び出し、効果的に調べ学習を進める。
	2	・日本とつながりの深い国について、グループごとに調べたい内容や方法を話し合う。	・前時で使った Keynote で学習を振り返り、グループごとに調べたい内容をまとめる。
	3	・日本とつながりの深い国について、グループごとに調べ、プレゼンテーション資料にまとめる。	・インターネットや地図帳などの調べた資料に言葉を書き込んだり、スライドに見出しをつけたり表現の仕方を工夫して、誰にでもわかりやすいプレゼンテーション資料を作る。
	4		
	5		
2	6	・日本とつながりの深い国々について紹介する。	・作成したプレゼンテーション資料を活用して、外国の生活について紹介し、気づいたことを交流する。
3	7	・外国の人と仲良くするためにはどうしたら良いか話し合う。	・電子黒板で、児童が行っていたユニセフ募金活動の様子を提示し、国どうしをつなぐ役割である国際連合への意欲・関心を高める。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 日本と関わりの深い国々について、経済的・歴史的・文化的なつながりがあることを知り、それらの国々から興味・関心や問題意識に基づいて、詳しく調べていく国を一か国選択することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 日本とつながりの深い国について話し合う。 ・国あてクイズをする。	・写真や資料を提示して話し合うことで、学習課題を明確にするとともに、調べる意欲を高める。	電子黒板 iPad（指） ・ Keynote	
日本とつながりのある5カ国の中から、くわしく調べたい国を選ぼう。				
展 開	○ 日本と文化的・歴史的・経済的につながりの深い国について調べる。 ・調べた国について気づいたことをワークシートにメモする。 『アメリカ』 リトルトーキョー NASA 『韓国』 電化製品 シルム 『オーストラリア』 コアラ 被災地訪問 『トルコ』 エルトゥールル号事件 トマト 『ブラジル』 笠戸丸 野球	・5つの国の中で興味を持った国から調べることができる Keynote 資料を活用することで、意欲的かつ効率的に調べ活動を進める。	電子黒板 iPad（児） ・ SKYMENU ・ Keynote	【関心・意欲・態度】 ・日本とつながりの深い国について意欲的に調べようとする。 (行動・ワークシート)

なかよし学級 日常生活の指導 学習指導案

授業者 玉城 明子 生田 一恵

《ICT の活用》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input checked="" type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末(iPad) <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末(iPad mini) <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> Keynote
ICT 活用のポイント	<input type="radio"/> 自作の Keynote 教材（くつひものむすび方や服のたたみ方など）を使うことにより、1 作業工程ずつ自分のペースで練習する。 <input type="radio"/> 練習している様子を写真や動画で撮影し、振り返ることで、自分や友だちのがんばりを認め合う。

1 学年・組 なかよし学級 計8名 （2年1名・3年3名・4年1名・5年3名）

2 場 所 プレイルーム

3 単 元 名 「できるように なろう」

4 目 標

◎ 友だちと関わりながら、課題に取り組むことができる。

- ・体操服の端をそろえてたたむ。
- ・給食のエプロンを立ってたたむ。
- ・くつひもを結ぶ。

5 児童の実態と個別の単元目標

児童	児童の実態	個別の目標
A児 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で衣類の着脱や、服をたたむことができるが、端をそろえてたたむことは難しい。 ・ひも結びはできないが、興味を持って取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端をそろえて服をたたむ練習に取り組むことができる。
B児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱は指導者が支援している。 ・衣服をたたもうとする意欲が見られ、指導者と一緒に補助具を使ってをたたむことができる。 ・ひも結びはできず、今の生活の中ではひもを結ぶ場面がなく、必要性を感じていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を見ながら、友だちと一緒に補助具を使って服をたたむ練習に取り組むことができる。
C児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱は指導者が支援しているが、半そで、半ズボンの着脱は一人でできる。 ・衣服をたたもうとする意欲が見られ、一人でたたむことができつつある。 ・ひも結びはできず、今の生活の中ではひもを結ぶ場面がなく、する必要性を感じていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を見ながら、一人で服をたたむ練習に取り組むことができる。

D児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で衣類の着脱はでき、服をたたむことができるが、その時の気分によってできないこともある。 ちょう結びがまだできないが、できるようになりたいという意欲が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順を見ながら、くつひものちょう結びの練習に取り組むことができる。
E児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で衣類の着脱や、端をそろえて服をたたむことができる。 ちょう結びはできるようになり、さらに速く形を整えて結ぶことができるようになりたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> くつひものちょう結びの練習に取り組むことができる。
F児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で衣類の着脱や、服をたたむことができるが、端をそろえてたたむことができにくい。 ちょう結びがまだできないが、できるようになりたいという意欲が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 端をそろえて服をたたむことができる。 手順を見ながら、ちょう結びの練習に取り組むことができる。
G児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で衣類の着脱や、服をたたむことができるが、端をそろえてたたむことができにくい。 ちょう結びがまだできないが、できるようになりたいという意欲が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 端をそろえて服をたたむことができる。 手順を見ながら、ちょう結びの練習に取り組むことができる。
H児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で衣類の着脱や、端をそろえて服をたたむことができる。 ちょう結びはできるようになり、さらに速く形を整えて結ぶことができるようになりたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> くつひものちょう結びの練習に取り組むことができる。

※補助具…ダンボールで作成した、服をたたむ動作を支援する道具（自作）

6 指導計画（全 4時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 2 (本時) 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと関わりながら、課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・「体操服のたたみ方」 ・「給食エプロンのたたみ方」 ・「くつひもの結び方」 ○ 活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことや、がんばったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1作業工程ずつ表示する自作の教材を使うことで、子どもが何度も映像を見て、練習することができる。 ・練習している様子を写真や動画で撮影し、見て振り返ることで、意欲を高め、次の目標を持つことができるようにする。
2	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『できるように なったよ！』発表会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの前でできるようになったことを発表する。 ○ 活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのがんばったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を撮影し、見て振り返ることで、意欲を高めることができる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- ◎ 友だちと関わりながら、課題に取り組むことができる。
 - ・体操服の端をそろえてたたむ。
 - ・給食のエプロンを立ってたたむ。
 - ・くつひものを結ぶ。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ はじめのあいさつをする。 ・ペアであいさつをし、握手をする。 「〇〇です。よろしくね。」			
	○ 前時を思い出し、本時でがんばることを確認する。 ○ がんばることを発表する。	・前時の活動の中で、子どもたちが頑張っている様子を捉えて撮影した写真を、電子黒板を使って映し出す。	iPad ・写真	【関心・意欲・態度】 ・今日のめあてをもつことができる。 (行動観察)
展 開	○ ペアで課題に取り組む。 ・「体操服のかんたんたたみ方」 ・「体操服のたたみ方」 ・「給食エプロンのたたみ方」 ・「くつひものかんたんちょう結び結び」 ・「くつひものちょう結び」	・1作業工程ずつ表示する自作の教材を使うことで、子どもがくり返し映像を見て、練習することができる。 ・練習している様子を写真や動画で撮影し、まとめて使用する。	iPad mini ・Keynote iPad ・写真 ・動画	【関心・意欲・態度】 ・友だちと関わりながら、取り組んでいる。 (行動観察) 【技能】 ・手順を見ながら、練習に取り組むことができる。 (行動観察)
ま と め	○ 本時の学習を振り返る。 ・自分たちの様子を写真や動画を見て振り返る。 ・できるようになったことやがんばったことを発表する。 ○ ペアで挨拶をする。 「〇〇さん、ありがとう。」 ・握手をする。 ○ 終わりのあいさつをする。	・本時の活動の中で、子どもたちが頑張っている様子を捉えて撮影した写真や動画を、電子黒板を使って映し出す。それによって、自分たちのがんばりを認め合うことができ、次への活動の意欲を持つことができる。	iPad ・写真 ・動画	【関心・意欲・態度】 ・自分や友だちのがんばったことを発表している。 ・他の友だちの発表に興味を持って聞いている。 (行動観察)

(3) 板書計画

